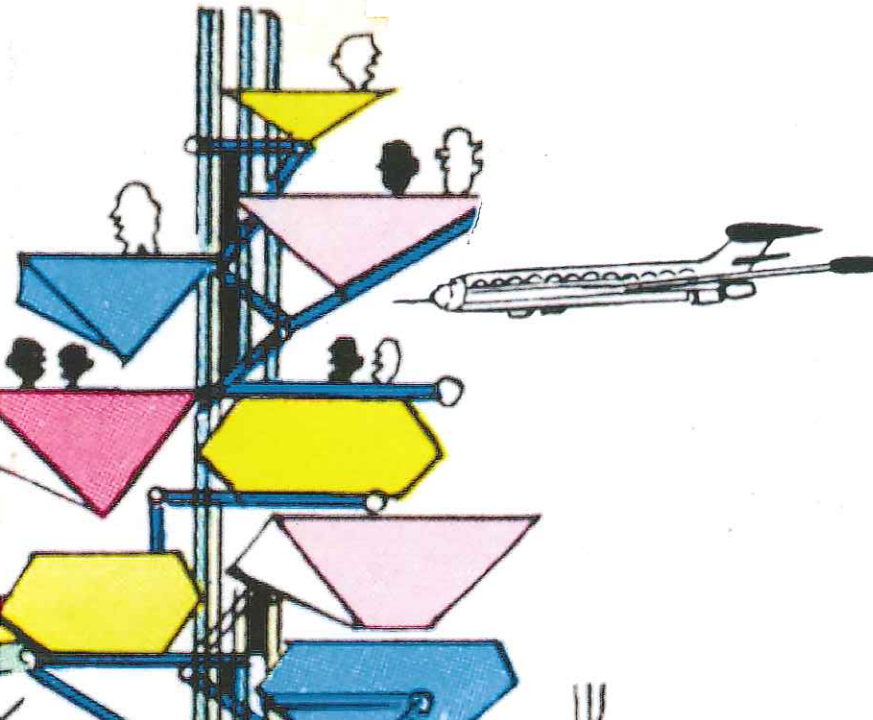


百年前に夢見た未来



リニアモーター EXPO'70 記念切手
(アラブ首長国連邦 フジエラ1970年 発行)



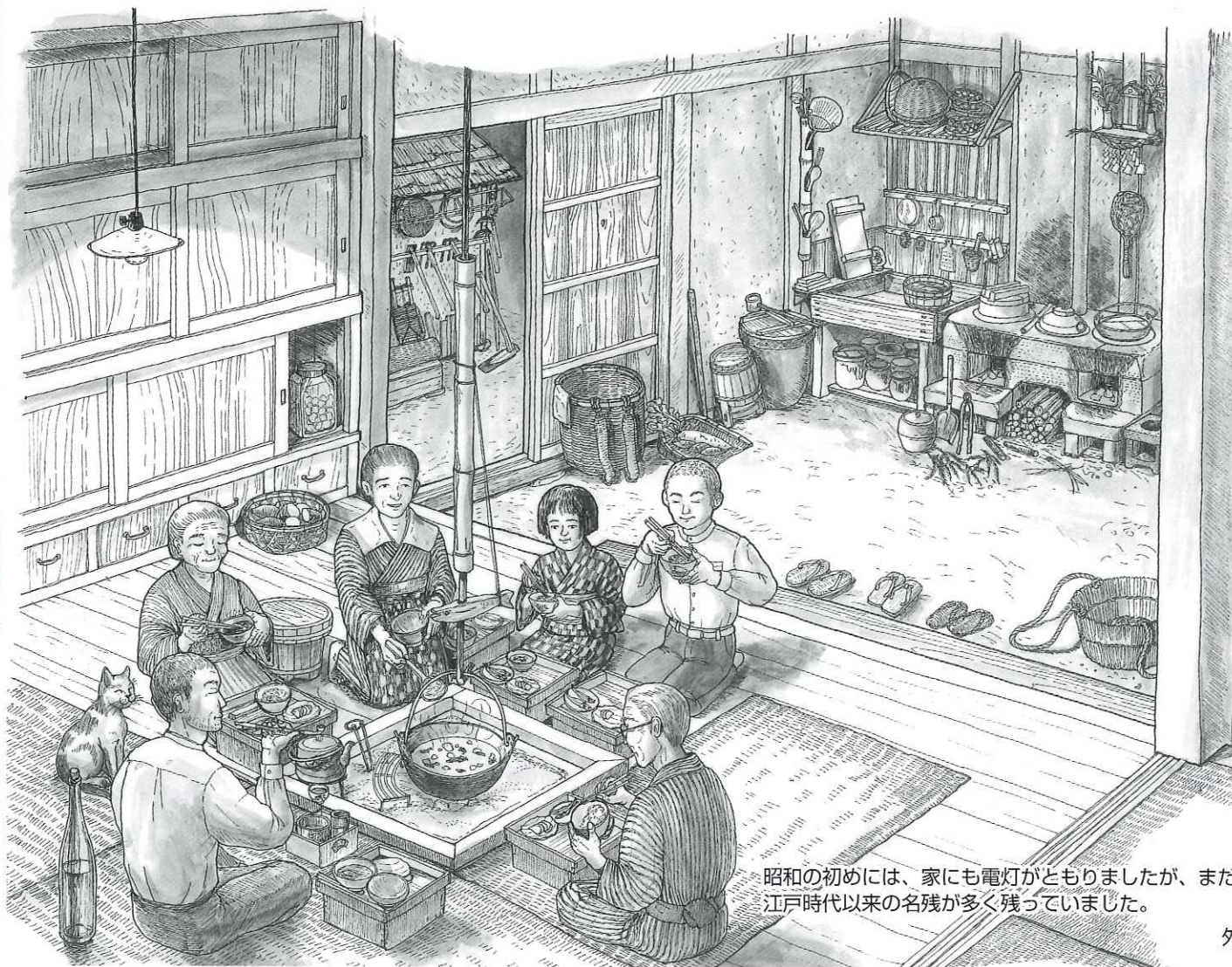
約100年前の子どもたち

会期

平成16年 4月25日(日)～7月4日(日)

開館 9:00～17:00

会場 三島市郷土資料館



昭和の初めには、家にも電灯がとまりましたが、まだ生活の中に江戸時代以来の名残が多く残っていました。

外立ますみ画

20世紀最初の年の1901年。その当時、世界中のどこにもテレビはありませんでした。ラジオもありません。飛行機も飛んでいません。そしてまた日本人の平均寿命も45歳くらい（現在80歳くらい）だった時代です。

この新聞はその20世紀の最初の年、1901年(明治34年)1月2日、3日の報知新聞（読売新聞の前身）です。

この新聞記事の中に、20世紀中におこる発展の予言があります。その中には、鉄道の発達や通信の発達、医学の進歩など予言として書かれています。

100年前の予想なので、はずれていても不思議ではありません。しかし、それが驚くことに現実になっていることが数多く見られます。

新聞記事を読み解きながら、100年前と今のモノの変化や発達をご覧いただくとともに、これからの100年後を想像してみたいはいかがでしょうか？

「20世紀の予言」の解説

① 無線電信及び電話の普及

「無線電信が発達し、さらに無線電話で東京にいながら、ロンドンやニューヨークの友人と話ができるようになる」
日本で電話が実用化されたのは1889年でした。電話がまだ一般に普及していない頃に、いずれ無線になり世界中で交信できると予言しています。

② 遠距離の写真

「新聞記者はいながらに、電気の力で、世界の状況をカラー写真で撮ることが出来る。」
1928年（昭和3）昭和天皇の即位式でFAXが初めて実用化され、京都の式典模様が東京で報道されました。現在はテレビ、カラーFAX、インターネットによって世界の状況を居ながら見ることができます。

③ 野獣の減少

「アフリカでさえ、野獣を見ることができなくなる」
まだアフリカには野生動物が多くいたところの予言です。

④ サハラ砂漠

「サハラ砂漠は、次第に開発されて豊かな土地となる」
各地の砂漠で緑化事業は進められていますが、地球は一層砂漠化が進行しています。

● 電話の進歩



● ラジオの昨今

● カラーテレビの登場



⑮ 市街鉄道

「市街鉄道は、ゴム製の車輪となり、空中及び地中を走る」
まだ東京銀座でも馬車が使われている時代の予言です。
地下鉄は1863年にロンドンで開通し、日本では1927年に浅草～上野間で開通しました。モノレールは1888年アイルランドで実用化され、日本では1950年代遊園地での利用から始まりました。モノレールや東京の“ゆりかもめ”などの新交通システムではゴムタイヤが使われています。

⑯ 鉄道の連絡

「鉄道は五大州を貫通して、自由に通行できる」
五大州の貫通は無理でしたが、日本の北海道、本州、四国、九州はトンネルや橋でつながれ、ヨーロッパ大陸とイギリスもユーロトンネルによってつながりました。

⑰ 暴風を防ぐ

「気象観測は発達し、天災がくることは一か月以上も前に予言できるようになる。中でも、台風に対しては、大砲を空中に発射して消滅させる。地震の害から逃れるようなものができる」
気象観測は発達し、天気予報の精度も近年非常にあがっています。しかし、地震の一ヶ月前の予知は現在も不可能です。建築工法の進歩により、建物は地震に強くなってきています。

⑮ 七日間世界一周

「十九世紀末に八十日間を必要とした世界一周旅行は七日間でできるようになる。世界文明国の人間は、男女を問わず一回以上、世界旅行をする。」

現在、世界を一周するだけならば一日でも可能です。当時は海外渡航が夢物語の時代で、しかもまだ男尊女卑の思想が強い時代に、女性が世界へ旅に出ることを予言しています。

⑯ 空中軍艦、空中砲台

「空中に軍艦が飛び、空中戦争が起こり、空中砲台が浮かぶ」
ライト兄弟が初飛行に成功したのはこの新聞記事より約3年後のことです。すでにこの当時には飛行船があり、空中での戦争を考えていたようです。しかし軍艦自体が飛ぶことは现阶段でも不可能です。

⑰ 蚊及び蚤の滅亡

「衛生事業が進歩する結果、蚊及び蚤は滅亡する」
害虫が全滅するまでは不可能でしたが、圧倒的に数を減らすことができました。ここに項目があがっていることから、当時多くの人が悩まされていたとみられます。

⑰ 人の身幹

「運動術と外科手術により、日本人の体は百八十センチ以上になる」
日本人青年男性の平均身長は現在170cmで、約100年前に比べて20cm伸びています。しかしこれは、食生活と住生活の変化の関わりが大きいと思われます。

⑰ 医術の進歩

「顕微鏡とエックス線の発達によって病原を発見し、肺結核なども手術で治る。切開術は電気により、少しも苦痛を受けない」
まだ肺結核が不治の病といわれていた頃の予言です。医学はこの100年で飛躍的に進歩しました。

⑰ 自動車の世

「馬車は廃止され、これに代わる自動車は安く買えるようになる。馬は物好きな人に飼育されるようになる」
自動車が日本で初めて走ったのは1898年、この予言の3年前のことです。自動車の便利さや必要性を直感したのでしょう。馬は乗馬クラブ、競馬などでしか見られず、普段接することはなくなりました。

⑰ 人と動物の会話

「動物の言葉の研究は進歩して、人と動物が自由に対話することができる。人が犬を使う世の中になる」

→ 8 暑寒知らず

「新機械が発明され、暑さ寒さを調節するために、暑さ寒さを知らない生活ができる」

1893年に涼をとるための電気扇風機が国産化されました。現在ではエアコンがオフィスをはじめ多くの家庭にも入っています。

9 植物と電気

「電力を使って、野菜を作ることができる。グリーンランドに熱帯植物が育つようになる」

ビニールハウスなどでの促成栽培では、電力を利用して野菜などを生育しています。技術的にはグリーンランドに熱帯植物を育てることも不可能ではありません。

10 人声十里に達す

「伝声器が改良されて、十里（約四十キロ）の距離を隔てて、声を届ける」

伝声器がよくわかっていませんが、遠距離の連絡には電話などが非常に発達しました。

11 写真電話

「電話口に、話す相手の姿を映す電話ができる」

テレビ電話は、すでに実用化されていますが、普及率はまだ高くありません。

12 買い物便利法

「写真電話により、遠距離にある品物を買うことができ、品物は地中の鉄管を通して配達される」

テレビやインターネットを利用したショッピングは、大きく進歩してきました。しかし、配達方法に地中の鉄管を使うことはありませんでした。

13 電気の時代

「薪、石炭、ともになくなり、電気が代わって燃料になる」

1887年東京の一部で電灯がとまり、電気がエネルギーの中心になることは、当時から多く人が期待していました。

14 鉄道の速力

「鉄道の速力は一時間に二百四十キロメートル以上になり、東京～神戸間を二時間半で走る。動力は、もちろん石炭を使用しない」

日本での鉄道の開通は1872年、そして1900年当時、急行で東京～神戸間は17時間半の時代でした。その時期に現在の新幹線のスピードを予言しています。

● 電化製品三種の神器



● オーディオ製品の今昔



● 新エネルギーの活用

箱根エコパークは、街灯の電力に風力と太陽光を利用している。



→ 動物との会話は、現在でも夢の世界です。しかし玩具として、イヌ・ネコの翻訳機はできました。また、とくに犬はトレーニングによって警察犬、盲導犬、聴導犬など人の支えとして活躍しています。

22 幼稚園の廃止

「人間の知識は非常に発達する。幼稚園は不要になって、男女共に大学を卒業しないと一人前とみなされなくなる」

幼稚園はなくなることはありませんでしたが、男女共に大学まで進学することが一般的になるという予言は的中

しています。

23 電気の輸送

「日本は琵琶湖の水を用い、アメリカはナイアガラの滝によって水力発電を起し、それぞれ全国に輸送することになる」

発電方法については的外れとなってしまいましたが、原子力発電と置き換えると、一カ所の大型発電所から遠隔地へ送電している点についての発想はあたっているといえます。



未来に夢を馳せる博覧会（大阪・万国博覧会 1970年、トーゴ共和国発行切手）

『百年後の日本』

大正9年(1920)に発行された冊子『百年後の日本』は、雑誌「日本及日本人」の特集企画で、政界、財界、知識人から「百年後の日本はどうか?」との予想を募り、350人以上の声を収録したものです。

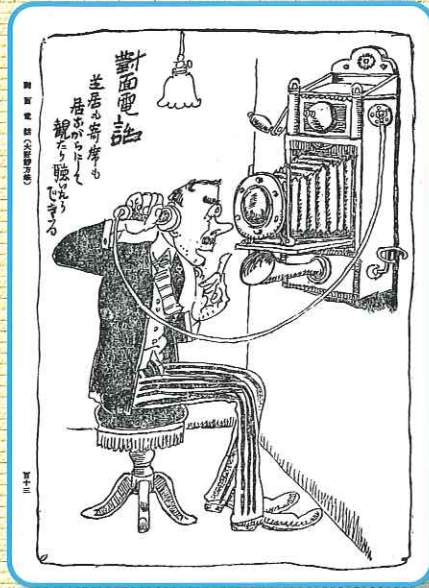
アンケート形式のため、非常に固い論文調の返事から、先のことまでわからないといったものまでさまざまです。

この特集には未来を予測した図が掲載されていますが、よく的中しています。



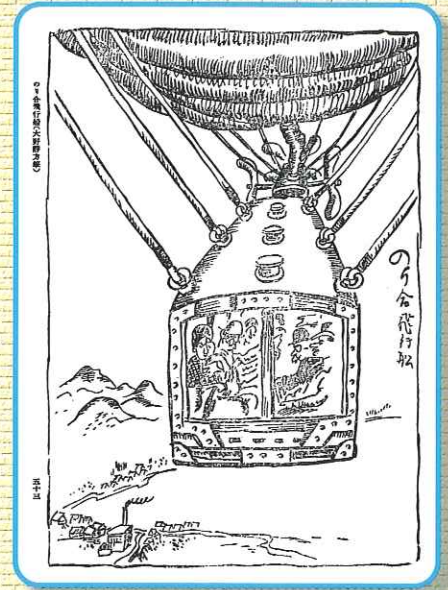
野外演説用大声蓄音機

「前もって吹き込み置き弁士は、機の前に立ちて身ぶりをするなり」
当時先端の自動車と蓄音機を活用して想像した選挙カー。



対面電話

「芝居も寄席も居ながらにして観たり聞いたりできる」
テレビ電話や、インターネットとして実現しました。



乗り合い飛行船

空の移動が活発になるとの予想です。現実には飛行船ではなく、急速に発達した飛行機が活躍しています。



解放された女

「女腰弁」は、今のOLにあたります。女性の外交官も現在では珍しくありません。男性社会の当時に、「主夫」を予想しています。



百年後の女代議士

まだ女性に参政権がない頃の予想です。女性代議士の誕生は戦後になってからのことです。



百年後の新婚旅行

新婚旅行で海外に行くことは、今では一般的になりました。

「もう百年も経ちましたら、私たちが今日まで苦しんできたことで、なにひとつとして、むだになったものなかったことを、積極的にかかしてくれるような時代もくるだろうと思います。」

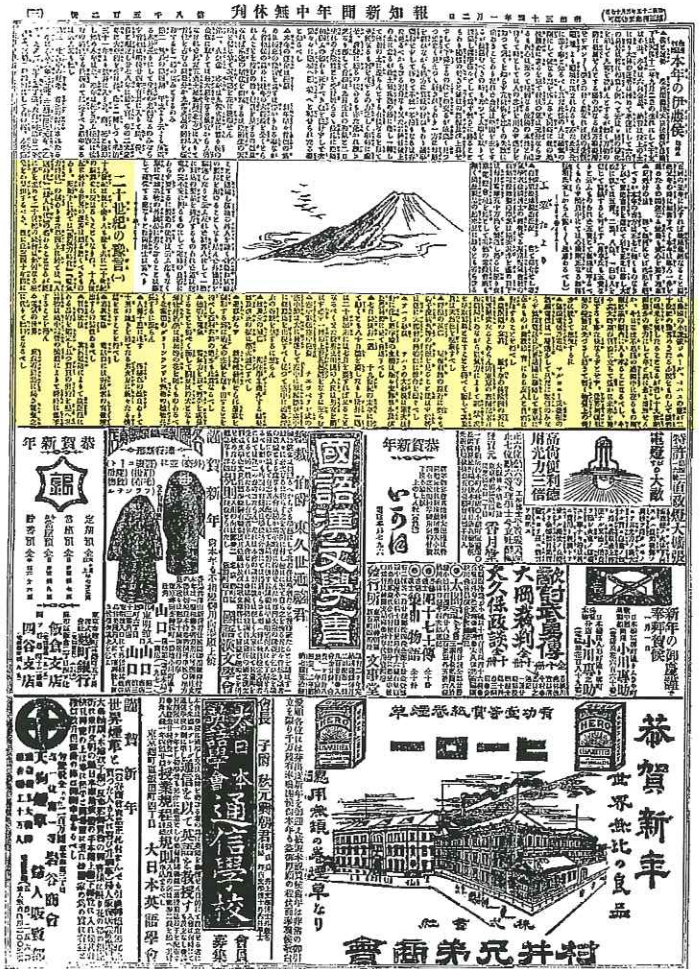
島崎藤村

「20世紀の予言」のライター

むら い げん さい
村 井 弦 齋

三河国（愛知県）豊橋出身
1863（文久3）年～1927（昭和2）年

明治・大正時代の新聞記者、小説家として活躍しました。東京外国語学校を中退ののち、22歳から2年間アメリカへ渡り苦学し、1893（明治26）年より報知新聞の発展に貢献しました。生涯に60編を超える小説を書き、明治・大正期に「当世第一」とうたわれた超人気作家です。また評論においても、時代を先取りした論説を展開しました。
主な著作『食道楽』『婦人世界』『日の出島』



報知新聞 1901年（明治34）1月2日

二十世紀の豫言（一）

十九世紀は既に去り、人も世も共に二十世紀の新舞臺に現はるることとなりぬ。十九世紀に於ける世界の進歩は頗る驚くべきものあり。形而下に於ては「蒸汽力時代」「電気力時代」の称あり、また形而上に於ては「人道時代」「婦人時代」の名あることなるが、更に歩を進めて二十世紀の社會は如何なる現象をか呈出するべき。既に此三、四十年間には、佛國の小説家ジュール・ベルヌの輩が二十世紀の豫言めきたる小説をものして、讀者の喝采を博したることなるが、若し十九世紀間進歩の勢力にして年と共に愈よ増加せんか。今日なほ不思議の惑問中に在るもの漸進思議の領内に入り來ることなるべし。今や其大時期の冒頭に立ちて、遙かに未來を豫望するも亦た快ならずとせず。世界列強形勢の變動は先づさし措きて、暫く物質上の進歩に就きて想像するに、

▲無線電信及電話 マルコニー氏發明の無線電信は一層進歩して、只だに電信のみならず、無線電話は世界諸國に聯絡して、東京に在るものが倫敦、紐育にある友人と自由に對話することを得べし。

▲遠距離の寫眞 数十年の後、歐洲の天に戦雲暗澹たることあらん時、東京の新聞記者は編輯局にあながら、電氣力によりて其狀況を早取寫眞となすことを得べく、而して其寫眞は天然色を現象すべし。

▲野獸の滅亡 アフリカの原野に到るも、獅子、虎、鱈魚等の野獸を見ること能わず、彼等は僅に大都會の博物館に餘命を継ぐべし。

▲サハラ砂漠 サハラの大砂漠は漸次沃野に化し、東半球の文明は漸々支那、日本及びアフリ加に於て發達すべし。

▲七日間世界一週 十九世紀の末年に於て尠くとも八十日間を要したりし世界一週は、二十世紀末には七日を要すれば足ることなるべく、また世界文明國の人民は男女を問はず必ず一回以上世界漫遊をなすに至らむ。

▲空中軍艦空中砲臺 チェツペリン式の空中船は大に發達して、空中に軍艦漂ひ、空中に修羅場を出現すべく、従つて空中に砲臺浮ぶの奇觀を呈するに至らん。

▲蚊及蚤の滅亡 衛生事業進歩の結果、蚊及蚤の類は漸次滅亡すべし。

▲暑寒知らず 新器械發明せられ、暑寒を調和する爲に適宜の空氣を送り出すことを得べし。

▲アフリカの進歩も此爲なるべし。

▲植物と電氣 電氣力を以て野菜を成長することを得べく、而して空豆は橙大となり菊、牡丹、薔薇は緑黒等の花を開くものあるべく、北寒帯のグリーンランドに熱帯の植物成長するに至らん。

▲人聲十里に達す 傳聲器の改良ありて、十里の遠きを隔てたる男女、互いに婉々たる情話をなすことを得べし。

▲寫眞電話 電話口には對話者の肖像現出するの装置あるべし。

▲買物便法 寫眞電話によりて遠距離にある品物を鑑定し、且つ賣買の契約を整へ、其品物は地中鐵管の装置によりて、瞬時に落手することを得ん。

▲電氣の世界 薪、炭、石炭共に渴き、電氣之に代りて燃料となるべし。

報知新聞

（一） 第三千八百五十四号 刊休無中（日 曜 木） 日三月一年四十三明治

近衛公府
一丁世紀の豫言
...

本報の社説
...

日の出立
...

學生券
...

火災
...

聯合株式保險株式會社
...



二十世紀の予言



村井弦斎

神奈川県立神奈川近代文学館 提供

報知新聞 1901年(明治34)1月3日

二十世紀の豫言(一)

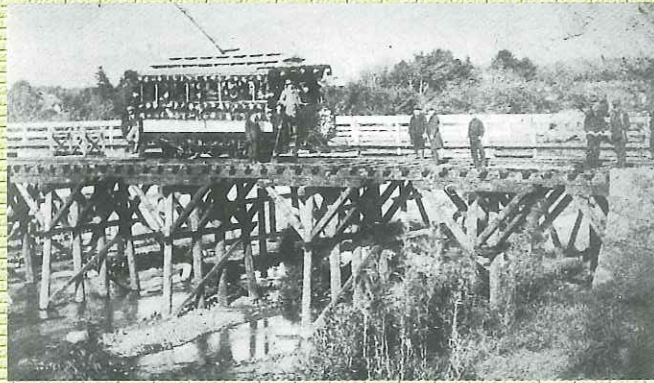
- ▲鐵道の速力 十九世紀末に發明せられし葉巻煙草形の機関車は大成せられ、列車は小部屋大にてあらゆる便利を備へ、乗客をして旅中にあるの感無からしむべく、爲に冬期室内を暖むるのみならず、暑中には之に冷氣を催すの装置あるべく、而して速力は通常一分時に二哩、急行ならば一時間百五十哩以上を進行し、東京、神戸間は二時間半を要し、また今日四日半を要する紐育、桑港間は一晝夜にて通ずべし。また動力は勿論石炭を使用せざるを以て、煤煙の汚水無く、また給水の爲に停車すること無かるべし。
 - ▲市街鐵道 馬車鐵道及鋼索鐵道の存在せしことは老人の昔話にのみ残り、電氣車及び圧搾空氣車も大改良を加へられて、車輪はゴム製となり且つ文明國の大都會にては、街路上を去りて空中及び地中を走る。
 - ▲鐵道の聯絡 航海の便利に至らざる無きと共に、鐵道は五大洲を貫通して、自由に通行するを得べし。
 - ▲暴風を防ぐ 氣象上の觀測術進歩して、天災來らんとすることは一ヶ月以前に豫測するを得べく、天災中の最も恐るべき暴風起らんとすれば、大砲を空中に放ちて、變じて雨となすを得べし。されば二十世紀の後半期に至りては、難船、海哨等の變無かるべし。また地震の動揺は免れざるも、家屋、道路の建築は能く其害を免るゝに適當なるべし。
 - ▲人の身軀 運動術及び外科手術の効によりて、人の身体は六尺以上に達す。
 - ▲医療の進歩 薬剤の飲用は止み、電氣針を以て苦痛無く局部に藥液を注射し、また顕微鏡とエックス光線の發達によりて、病源を摘發して之に應急の治療を施すこと自由なるべし。
 - ▲また内科術の領分は十中八九まで外科術に移りて、後には肺結核の如きも肺臟を剔出して腐敗を防ぎ、パチルスを殺すことを得べし。而して切開術は電氣によるを以て、毫も苦痛を與ふること無し。
 - ▲自動車の世界 馬車は廢せられ、之に代ふるに自動車は廉價に購ふことを得べく、また軍用にも自轉車及び自動車を以て馬に代ふることとなるべし。従て馬なるものは、僅かに好奇者によりて飼養せらるゝに至るべし。
 - ▲人と獸との會話自在 獸語の研究進歩して、小學校に獸語科あり、人と犬、猫、猿とは自由に対話することを得るに至り、従て下女下男の地位は多く犬によりて占められ、犬が人の使に歩く世となるべし。
 - ▲幼稚園の廢止 人智は遺傳によりて大に發達し、且つ家庭に無教育の人無きを以て、幼稚園の用無く、男女共に大學を卒業せざれば一人前と見做されざるにいたらむ。
 - ▲電氣の輸送 日本は琵琶湖の水を用ひ、米國はナイアガラの瀑布によりて水力電氣を起して、各々其全國内に輸送することとなる。
- 以上の如くに算へ來らば、到底俄に盡し難きを以て、先づ我豫言も之に止め、餘は読者の想像に任す。兎に角二十世紀は奇異の時代なるべし。

三島の20世紀

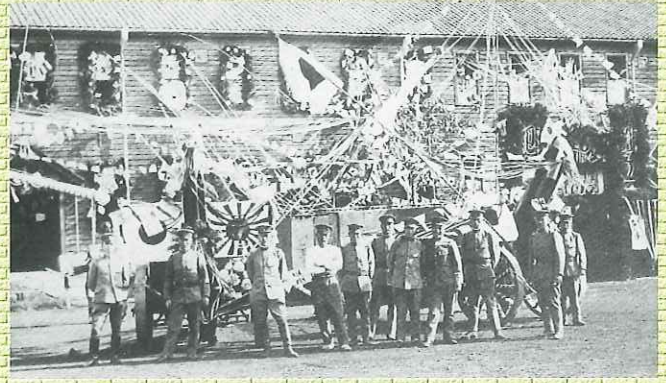
20世紀の百年は、日本では明治、大正、昭和、平成と移り変わってきました。三島は、明治・大正のどかな町や農村から、連隊の駐屯する軍都となり、昭和に入ると北伊豆震災・太平洋戦争の激動の時代をとり、戦後の高度経済成長下、新幹線三島駅開業に象徴される繁栄を享受しました。

わずか百年のあいだに起こった地方都市の変遷の激しさが、この三島には凝縮してみてもとることができます。

あまりの激変で社会にも人々のあいだにもひずみが生じてきました。その解決がこれからの百年の課題となることでしょう。



1906年（明治39） チンチン電車
県下最初の電車は三島と沼津間に駿豆電気鉄道が敷かれ、主要交通機関として50余年活躍しました。（黄瀬川橋）



1919年（大正8） 三島に野戦重砲兵連隊
明治以降さびれてしまった三島町は、連隊を置いたことで活気を取り戻しました。（野戦重砲兵第三連隊の創立記念日の賑わい）



1930年（昭和5） 北伊豆震災
11月26日、推定震度6の激震が北伊豆地域を襲いました。



1934年（昭和9） 東海道線三島駅開業
12月1日丹那トンネルが開通し、三島駅が開業しました。



1960年頃（昭和35） 三島大通り商店街
絵はがき。説明書きに「女郎衆の姿は今もなき近代美の市街」とあります。



2004年（平成16） 新しい三島のランドマーク（建設中）
時代の変化とともに三島の中心に、新たな時代のランドマークとなる、高層ビルが建てられています。（2005年完成予定）

三島市郷土資料館 〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内

発行日 平成16年4月25日 TEL 055-971-8228 FAX 055-981-3730